

12月17日(日) 14:20~15:20 / 第2会場(36階 スペース36R)

**共催教育講演**

共催：特定非営利活動法人 血管医学研究推進機構

司会：太田 祥江

特定非営利活動法人 血管医学研究推進機構 事務局長

演者：高倉 伸幸

大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授

略 歴：1988年 3月	三重大学医学部 卒業
1988年 6月	三重大学医学部附属病院第2内科(血液・腫瘍内科)(1993年3月まで)
1997年 3月	京都大学大学院医学研究科博士課程修了、医博取得
1997年 4月	熊本大学医学部、助手
1999年10月	同上、講師
2000年 4月	熊本大学発生医学研究センター、講師
2000年10月	同上、助教授
2001年 4月	金沢大学がん研究所、教授
2006年 4月	大阪大学教授 現在に至る
2015年 9月	大阪大学 副理事

**JE 老人病としての癌の予防法を幹細胞医学と血管生物学により開発する**

高倉 伸幸 (タカクラ ノブユキ)  
 大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授  
 NPO法人 血管医学研究推進機構 副理事長

老人病の範疇に入る病気は多岐にわたるが、代表的なものとしては、中枢神経系の血管損傷(脳卒中など)、悪性腫瘍(癌など)、心臓疾患(高血圧性心疾患、心筋梗塞など)、老年精神病などとされている。近年、高齢化が深刻な社会問題となっており、特に高額な医療費が必要な癌においては、個人の負担ばかりか、保険医療による我が国の財政をも圧迫してきている。癌の発症を抑制(予防)する為には、癌の悪玉として近年取り上げられている癌幹細胞を制御することが必要であ

る。癌治療後の再発が癌幹細胞によることが明らかとなってきており、この癌幹細胞の増殖を抑制すれば癌の発症そのものを抑えることができる。我々は、癌幹細胞の自己複製に関わる分子の発現抑制で、がんの発症を抑制する素材の発掘を進めてきた。本セッションではこの癌幹細胞の増殖機構に関わる分子機序の紹介にあわせて、癌組織の血管制御によりがん組織に効率よく薬剤を送達させる方法に関しても紹介する。